

会 議 録

会議の名称	平成 24 年度 第 4 回富士見市図書館協議会															
開催日時	平成 24 年 11 月 17 日（土）午前 10 時 00 分～12 時 00 分															
開催場所	中央図書館 レセプション室															
出席者	<p>高橋 さかえ委員 岩本 喜直委員 上松 恵美子委員 内田 弘委員 大澤 茂和委員 小林 恵子委員 高居 正博委員 中澤 佳珠代委員 野村 富雄委員 矢沢 靖子委員</p> <p>○教育委員会生涯学習課 金田課長 林図書館担当 古川図書館担当</p> <p>○事務局 根来中央図書館長 一戸中央図書館副館長 赤本鶴瀬西分館長 岩崎ふじみ野分館長 本間次期中央図書館副館長</p>															
欠席者	なし															
公開・非公開	公開（傍聴人 0 人）															
会議次第	<p>○委員長あいさつ</p> <p>○報告連絡事項 図書館主催事業について</p> <p>○協議事項 「富士見市子ども読書活動推進計画」について</p>															
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見市子ども読書活動推進計画（たたき台） ・富士見市立図書館各館の開催事業報告（9 月～10 月） ・各館の広報紙 <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>さざなみだより</td> <td>10 月号</td> <td>11 月号</td> </tr> <tr> <td>とびらしんぶん</td> <td>10 月号</td> <td>11 月号</td> </tr> <tr> <td>BOOK ADVENTURES</td> <td>168 号</td> <td>169 号</td> </tr> <tr> <td>にこにこひろば</td> <td>10 月号</td> <td>11 月号</td> </tr> <tr> <td>つるせにしんぶん</td> <td>43 号</td> <td>44 号</td> </tr> </table> 	さざなみだより	10 月号	11 月号	とびらしんぶん	10 月号	11 月号	BOOK ADVENTURES	168 号	169 号	にこにこひろば	10 月号	11 月号	つるせにしんぶん	43 号	44 号
さざなみだより	10 月号	11 月号														
とびらしんぶん	10 月号	11 月号														
BOOK ADVENTURES	168 号	169 号														
にこにこひろば	10 月号	11 月号														
つるせにしんぶん	43 号	44 号														
会議録確認	高橋 さかえ委員															

議 事 内 容

【報告連絡事項】

図書館主催事業について

各館で実施した9月から10月までの開催行事について報告を行った。

【協議事項】

「富士見市子ども読書活動推進計画」について

第2次計画を策定するにあたり、前回までの協議会での討議などを盛り込んで作成した「たたき台」資料を提示。内容を説明して委員からの意見を求めた。

委員 : 漫画や雑誌を読むのも読書活動に入るのか。家庭では図書よりも漫画や雑誌に流れる傾向がある。レベルは様々だが、読書にあたるかどうかは疑問。

市 : 施設によっても異なると思うが、漫画や雑誌だから読書の対象外であるとは考えていない。

委員 : 「広報誌等による本の紹介の充実」とあるが、どの広報を指しているか。「広報ふじみ」は既にたくさんの情報が掲載されているが、さらに情報を増やすということか。

市 : 「とびらしんぶん」などを想定している。

委員 : 広報誌は、図書館以外ではどこで見ることができるのか。子どもが見ることができる施設にも置くべき。例えば、市の施設以外でも塾や病院、スイミングスクールなどに置いてはどうか。

委員 : 本当は、情報だけでなく本が置いてあって、1か月に1回くらい入れ替わると良いのだが。

委員 : 「子ども読書活動推進計画」が市の教育振興計画の中でどのように位置づけられているのかがよくわからない。

市 : 付け加える予定になっている。2つの計画は連動するものと考えている。

委員 : もっと具体的な例を挙げるなどの手立てが必要であると思う。

委員 : 利用登録状況はどうなっているか。

市 : 学校はクラス単位で登録し、団体貸出にも対応している。個人に対しては個々の考え方を尊重しており、登録は推進するが無理強いはしない。

図書館 : 現在の登録者は約89,000人で、うち市内在住は約70,000人。市の人口が約11万人なので7割くらいか。2年ごとの利用更新をお願いしているが、変更手続きをしない限りは登録時の情報のままなので、現状を正確には捉え切れていない。

市 : 登録するルールはあるが、登録を削除するルールは決めておらず、原則としては削除しない。そこで、現状把握の方法を検討中。

委員 : 公共施設のフリースペースでゲームをしているような子どもたち（中高

生など)の目を本に向けさせることはできないか。本をある程度置いて、読書できる環境を作ってみてはどうか。

市 : 中高生への取り組みは課題となっており、いい方法が見つかっていない。図書館で中高生の興味を惹くような本をもっと紹介するなど、本の世界に引き込むような取り組みができないか考えている。

委員 : 小学校での取組として「授業中の図書の時間」という表現があるが、学習指導要領では規定されていない。「読書する力を育てる」と解釈できる箇所もあるが、具体的な授業時間数としての規定はない。朝自習や国語科での読書指導ならば行なわれている。

委員 : では、学校や教諭によって取組状況が異なるということか。

委員 : 手法は各々異なるが、学校としては一貫した考えの下に取り組んでいる。

委員 : 図書館は広報が上手でなく、利用者が来るのを待っているようなイメージ。もっと積極的に外へ出て行くべきではないか。放課後児童クラブなど、子どもたちがいるところは多い。そういう姿勢をみせてほしい。

図書館 : PR が下手、情報発信が弱いというのはおっしゃるとおり。例えば、前任地では地元新聞と懇意になって記事を掲載してもらった経験があるが、こちらではまだそこまでの関係が築けていない。そういった働きかけを引き続きしていきたい。

委員 : 学校の図書整理員との連携は行なわれているか。

図書館 : 必要に応じて行なっている。例えば、出版社の巡回販売の際に整理員にも声をかけて選書の参考にさせていただいた。

市 : 整理員の研修会に図書館から講師を派遣したりしている。

委員 : 地域とも協力して、空き店舗などを利用した文庫活動をしてはどうか。図書館から離れている地域でも読書活動の活性化を期待できる。また、図書館の YA コーナーの充実も必要。中央図書館では最奥にあるので、迎え入れる工夫がほしい。

委員 : そもそも図書館に子どもがいない。来なければ何も始まらない。

委員 : 保護者に呼びかけることはできないか。親を巻き込んで、大人を通じて子どもへアプローチすることも必要。

委員 : 「郷土富士見検定」のように親子ともに働きかける方法も良い。小学生の副読本で検定の参考になるものがあつた。読書活動だけでなく、調べ学習にもつながる。

市 : 「家読(うちどく)」を推進している自治体が全国的に増えている。家族で読書をしようという運動。富士見市では「子ども読書月間」などを計画している。

委員 : 家庭に本を置いてあるだけでも読書習慣につながる。まずは親世代を動かすことも必要。

委員 : 図書館が外部に出て行くにあたって職員だけでは対応しきれないならば、ボランティアを活用してはどうか。

図書館 : 図書館に関わるボランティアとしては、障がい者サービスの朗読者、資料修理、読み聞かせサークルが主なところ。それぞれ10数人いる。

市 : 各学校には「学校応援団」があり、読み聞かせなどの活動を行なっている。公民館では子育てサロンでお母さん方がボランティアとして活動されているところもある。ただし、現在は個々で活動していて連携はない。情報交換や意思の疎通をはかることが必要と考えている。

委員 : 子どもたちに本を届けるボランティアが不足している。

委員 : ボランティアは関わりたいという気持ちから発していることが原則。行政が焦って形を作り、そこに参加させるのはボランティアの芽をつぶす可能性もある。学校であれば、就学時検診のように全員が参加する機会を捉えて活動することが大切。庁内の連携を整備すべき。

委員 : 11月に実施された利用者懇談会の状況を報告してほしい。

市 : 子どもの読書に関連することと言えば、水谷東小では、昨年度の「光をそそぐ交付金」で購入した新しい本によって読書に興味を持つ子どもが増えたという話があった。針ヶ谷では、図書館が遠いために読書活動が推進しづらいという意見があった。全般的に本日の協議会での意見とリンクする内容が多かった。

委員 : 高校生への取組を考えた場合、駅に情報発信コーナーがあると良い。

委員 : 授業のある時期は読書時間を確保することが難しいが、長期休暇に集中して読んだという身近な経験がある。高校生は長期休暇を利用して推進するという方法も考えられる。

次回開催日程

当初は平成25年2月16日(土)の予定だったが、子ども読書活動推進計画の検討を行うため、平成25年1月19日(土)午前10時から開催する。